

第39回関東地区公立中学校
修学旅行研究発表会
研究紀要

平成15年11月14日(金)
プラザイン・くろかみ(宇都宮市)

主 催
関東地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会

後 援
茨城県・群馬県・埼玉県・千葉県・栃木県・宇都宮市各教育委員会
茨城県・群馬県・埼玉県・千葉県・栃木県各中学校長会

研究発表会の趣旨

学校週5日制の下、平成14年度からあたらしい教育が始まりました。

新しい教育では、人としての確かな資質と新しい時代に対応できる能力を備え、豊かな心をもった人間の育成を目指しています。

したがって日々の教育活動に、こどもたちが設定した課題に、自らの考えと方法をもって積極的に対応していこうとする意欲とそれを解決していく力を身につけたり、また周りと協力しながら社会性を養い、共に生きる姿勢を身につけるための場面を取り入れ、教育を展開する必要があります。そのために、学校に、主体性をより一層生かし、これまで以上に創意に満ちた特色ある教育活動の展開を図っていくことが強く求められています。

さて、生徒が平素と異なる生活環境のもとで、人とのふれあいや様々な体験と学習の展開が図れる修学旅行は、あたらしい教育の目的を十分果たしえる教育活動の実践の場であると考えます。いうまでもなく修学旅行はこどもたちが最大の関心を寄せる学校行事であるとともに、一人一人の生徒の個性や人間性を育み、生徒の人間形成に極めて大きな影響を及ぼすなど、その教育効果は大きいものがあると考えます。

今日各学校は修学旅行を実施するにあたり、新しい教育の趣旨を汲み取り、こどもたちの主体性を生かし、さらには教育効果をより高めるために関係者や関係機関との連携を図る中で、創意に満ちた取り組みをされていることと思います。

このような趣旨から研究発表会の主題に「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」を設定し、各県教育委員会をはじめ、関係教育諸機関のご協力とご支援により、関東地区公立中学校修学旅行研究発表会を開催し、修学旅行の研究を深めることは大きな意義があることと考えます。

目 次

1 研究発表会次第		1
2 あいさつ		
関東地区公立中学校修学旅行委員会会長	柿 崎 龍 夫	 2
財団法人 全国修学旅行研究協会理事長	中 西 朗	 3
3 研究発表		
主題 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」		
・発表 1		 4
「自己決定の場面を生かした修学旅行」		
宇都宮市立国本中学校		
・発表 2		 14
「体験的な学習を通して見つめなおす自分とふるさと再発見の旅」		
栃木市立栃木西中学校		
4 指導講評		41
栃木県教育委員会 指導主事 高岩利夫 先生		
5 研究発表のあゆみ		42

研究発表会次第

1 大会主題 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」

2 日 程

(1) 受付(13:00～13:30)

(2) 開会行事(13:30～13:50)

・ 開会の言葉

関東地区公立中学校修学旅行委員会運営委員長 後 藤 明

・ 主催者あいさつ

関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 柿 崎 龍 夫

財団法人 全国修学旅行研究協会理事長 中 西 朗

・ 来賓祝辞

栃木県教育委員会教育長 田 嶋 進

宇都宮市教育委員会教育長 高 梨 眞佐岐

・ 来賓及び指導者紹介

(3) 研究発表(13:50～15:00)

・ 関修委の調査研究及び活動報告

・ 発表1

「自己決定の場面を生かした修学旅行」

宇都宮市立国本中学校 教諭 生田目 薫 岩崎 昌美

・ 発表2

「体験的な学習を通して見つめなおす自分とふるさと再発見の旅」

栃木市立栃木西中学校 教諭 田中 弘子 佐藤 宏行

(4) 休憩(15:00～15:15)

(5) 研究協議(15:15～15:45)

(6) 指導講評(15:45～16:15)

栃木県教育委員会 指導主事 高 岩 利 夫 先生

(7) 閉会行事(16:15～16:30)

・ 閉会の言葉

栃木県中学校長会修学旅行部

・ 諸連絡

研究発表会の開催にあたって

関東地区公立中学校修学旅行委員会

会 長 柿 崎 龍 夫

(栃木県宇都宮市立陽北中学校長)

修学旅行は、日常と異なる環境の中で、自然や文化などに触れ、集団の一員として、一人一人が自らの役割と責任を果たし、互いに規律を守り、協力し合って行動するなどの体験活動を通して多くのことを学ぶことができる、新しい学習指導要領の核となっている「生きる力」をはぐくむためのたいへん重要な学校行事の一つであります。

この明治以来続いている、伝統ある修学旅行は、戦後の混乱期に続き、様々な変遷を経て今日に至っているわけですが、昭和40年代前半から東海道新幹線を利用するようになって、時間的にも、安全面でも飛躍的な変化を遂げることとなりました。また、形態的にも多様化し、生徒の体験をより重視した班別による活動などを多くの学校で実施するようになり、生徒の自律心や自主性の育成を図る上で、より一層の効果を上げるようになりました。

本市の例では、昭和38年度までは各学校独自に修学旅行を実施していましたが、39年度から各校共通して関西方面になりました。陽北中の当時の修学旅行の日程を見ますと、初日の集合時刻が午前2時40分、3時出発、大宮駅までバスで3時間、そこから京浜東北線に乗り換え東京駅まで行き、修学旅行専用列車に乗り、京都駅に到着したのが午後3時。帰りは、午後8時すぎ京都を後に夜行列車に乗り、学校に着いたのが午前9時近くと記録に残されております。現在では、新幹線で京都までの往復が約6時間、当時のご苦労を思うと、まさに隔世の感があります。

ところで、関東地区公立中学校修学旅行委員会は、新しい時代にふさわしい修学旅行を目指して、研究発表会はもとより、体験活動等の実態調査や、その具体的な情報の提供に努めております。また、全国修学旅行研究協会のもと、国庫補助金の交付申請、修学旅行関連の研究図書の刊行への協力、さらに、修学旅行専用列車による輸送をスムーズに行うための計画、割り付け等、鉄道輸送の管理運営などを行っております。

本日の研究発表会では、自己決定の場を生かし、体験的な学習を取り入れた修学旅行の実績を積み重ねてきた栃木県の2校が発表いたします。この実践報告が多くの学校の参考となり、新しい修学旅行の在り方に示唆を与えてくれることを期待します。

最後になりましたが、本研究発表会を開催するにあたり、ご指導ご助言いただきました栃木県教育委員会、宇都宮市教育委員会、栃木県中学校長会並びに関係諸団体、さらに、この研究発表会の運営に携わった全国修学旅行研究協会、栃木県修学旅行部会の皆様に厚く御礼申し上げます。

関東地区公立中学校 修学旅行研究発表会の開催にあたって

財団法人 全国修学旅行研究協会
理事長 中 西 朗

めまぐるしい構造改革の中、教育もその波に押し流されています。教育も時代の主張の中で変化を余儀なくさせられるのですが、あまりにも激しい変化に目を見張るばかりです。しかしここで、先を急がずじっくりと、日本のすばらしい伝統としての教育の姿を見つめなおしてみることも大切ではないかと思っています。

それは、教師としての自信を取り戻し、教育の専門職として、21世紀を生きる子供たちのために必要な学問を教授することではないでしょうか。

教育の方向として示されている「生きる力の育成」とは、今子供たちの抱えている課題の解決を目指すとともに、これからの生涯において生起される課題に自らが主体的に解決を図ることのできる力を育成することでしょう。そのためには、その力の根底を支える「豊かな学び」を培っていくことになります。発達段階にある子供たちですから、教師という立場から、子供一人一人にしっかりと力をつけていかなければなりません。

修学旅行もその一環として重要な役割を担っています。修学旅行を通じて、必要な学びの定着を図っていくことになります。今までの38回に及ぶ修学旅行研究発表会もこの流れに沿った貴重な発表でありご提案でした。特に、今回の発表は、「自己決定の場面を生かす」(国本中)、「見つめなおす自分とふるさと」(栃木西中)と、修学旅行を通じて自己を見つめ発見するという重要な「学びの鍵」が提示されます。大変期待に満ちております。

最後になりましたが、この発表会に際し、関東地区公立中学校修学旅行委員会、各県の教育委員会、特に開催地の宇都宮市の教育委員会、各県の中学校長会、栃木県修学旅行部会の皆様のご支援とご尽力に心から感謝申し上げます。

自己決定の場面を生かした修学旅行

栃木県宇都宮市立国本中学校

教諭（3年主任）

生田目 薫

教諭（研究主任）

岩崎 昌美

I、はじめに

II、テーマ設定の理由

III、修学旅行までの取り組み

IV、修学旅行の取り組み

- 1、事前学習から事後のまとめまでの活動日程
- 2、修学旅行の行程
- 3、テーマに基づく活動の内容

V、まとめ

- 1、生徒のアンケートの結果から
 - （1）コース別活動について
 - （2）班別活動について
 - （3）クラス別活動について
 - （4）奈良の宿舎について
 - （5）京都のホテルについて
 - （6）『お小遣い大作戦』について
 - （7）服装について
- 2、保護者のアンケートの結果から
 - （1）活動について
 - （2）発表について
 - （3）宿舎について
 - （4）『お小遣い大作戦』について
- 3、成果と課題

I、はじめに

本校は宇都宮市の北西部に位置し、国道119号線（日光街道）が南北に、北部から西部にかけて国道293号線が通り、その中間に国道の間道としての新里街道が地区の中央を通っている。

日光市への続く今市市と宇都宮市を隔てる鞍掛山を背景に本校の周辺は、緑豊かな環境に恵まれており、純農村地帯は新里ネギの産地として有名である。学校給食の食材として納入が可能な生産農家からは、ねぎやネギニラなどの野菜、お米などを納入してもらい、地産地消を積極的に導入している。

日光街道沿いは宅地造成が進み、近郊市街地へと変貌している。保護者の職業別調査によると、農業経営者は地区全体の4%に過ぎず、会社員等勤めにでている人が60%に及ぶ。今後もさらに、住宅区域が広がるものと思われる。

生徒数は全校生349名、1学年が111名で4学級、2学年が113名で3学級、3学年は125名で4学級、徐々に少子化の影響が現れてきている。保護者は、学校教育に協力的で、体育祭・学校祭・ボランティア活動・本校教育の特色でもある茶摘み等は積極的な参加がみられ、親子のふれあい行事となっている。

校庭の周りには、お茶の木が垣根となっており、毎年5月には全校生徒による茶摘みを行っている。地区内から講師を招き、茶の手もみ製法を教えてもらいながら製茶し、全校で新茶を味わうとともに、地域にある高齢者福祉施設や日ごろお世話になっている多くの施設に配っている。



II、テーマ設定の理由

本校の教育のめざす生徒像は、人間尊重の精神を基盤に、自主性・創造性に満ち、やさしい心とたくましい気力・体力をもった豊かな個性と人間性を培い、社会の発展に貢献できる人間を育成するため、次の目標を「めざす生徒像」として設定している。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 健康で意志の強い生徒2 自ら学び、創造力のある生徒3 心情豊かで思いやりのある生徒4 勤労を愛し、実践力のある生徒 |
|--|

さらに、教育目標を達成するために次の重点目標が設定されている。

- 1 自他の生命を尊重し、健康でたくましく生きようとする態度を養うとともに、自然や物を大切にし、環境保全に努めようとする態度を養う。
- 2 学習や生活に必要な基礎的・基本的な学力を身につけ、常に学ぼうとする意欲や態度を養う。
 - ・ 日々の学習活動の中で生徒の基本的な学習態度や生活習慣の育成に努めながら、学習に対する興味や関心、自ら学ぼうとする意欲や態度を養う。
- 3 自ら考え、判断し、主体的に行動できる能力や態度を養う。
 - ・ 一人一人の発想や考え方を大切にするとともに、学習過程を重視した生徒主体の学習指導を展開し、思考力、判断力、表現力を伸長する。
 - ・ 主体的・体験的学習活動の中で、自ら課題を見つけ、自ら解決していこうとする態度や能力を養い、活動への意欲や実践力を育成する。
- 4 人間的なつながりやきずなを大切にし、感謝の心や奉仕の心をもって共に生きようとする態度を養う。
- 5 社会規範を理解し、積極的に社会に貢献しようとする態度を養う。
- 6 わが国や外国の文化を理解し、異なる文化を認め、受け入れ、ともに大切にする態度を養う。

この中でも2と3の項目が特に重視すべき点となっている。

また、学校行事における旅行・集団宿泊的行事のねらいは、「平素と異なる生活環境において、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについて望ましい体験を積むこと」とある。

本校の生徒の実態を考えると、素直で明るくあいさつなどがよくでき、学校行事などにも意欲的に取り組み、多くの生徒が「学校が楽しい」と考えている。言われたことに対しては不平を言わずに取り組めるが、主体的に行動することが苦手な生徒も多い。また、近年の社会の変化とともに、責任感に欠く行動や、責任を転嫁する傾向、自己中心的な考え方など、集団生活における行動様式の未熟さ、規範意識の低下の傾向が見られるようになってきている。

このようなことから、生徒が意欲的に修学旅行についての学習に取り組み、生徒間だけでなく、生徒と教師、生徒と保護者などの関係を深め、社会のルールやマナーを身につけながら、中学校生活の最高の思い出となるように学習計画を立てた。そして、この学習計画の中に、思考力・判断力・表現力等を養う問題解決的な学習を取り入れ、創造的な知性や技能を育てたいと考えた。また中学校最終学年として、卒業後の進路を主体的に選択することができるためのステップとして修学旅行をとらえ、自らが考え、決定していく場面を取り入れ、本テーマを設定した。

III、修学旅行までの取り組み

学 校 行 事	目 的
冒 険 活 動 平成 13 年 7 月 3 日～6 日 うつのみや平成記念 子どものもり公園 宇都宮冒険活動センター	1, 豊かな自然の中で「自ら遊び、学び、きたえる」体験学習を行い、この体験を通して、自然を楽しむとともに自然に対する理解を深める。 2, 宿泊などでの共同生活を自主的・主体的に行うことによって、協力することの大切さやきまりを守ることの重要性を体得し、望ましい人間関係の確立や集団生活の向上を図る。 3, 自他の健康・生命の安全に留意するとともに自然保護や公德道德に対する関心を高める。 4, 自然の中での冒険教育を通して友情を深め、中学時代の楽しい思い出を作る。
社会体験学習 平成 14 年 11 月 18 日～22 日 宇都宮市内の事業所	1, 地域における人とのふれあいを通して、共に生きる心や感謝の心をはぐくむ。 2, 社会体験活動を通して、主体的に自己の在り方や生き方を見つめる。 3, 学校を離れた地域社会の中で、人間関係をつくる力を伸長する。
自然体験学習 平成 15 年 1 月 28 日～29 日 日光市 光徳クロスカントリー スキー場	1, 冬季の厳しい大自然の中で、日常生活では体験できない雪上活動を行い、ウィンタースポーツの楽しさを体験するとともに、心身の鍛練を図る。 2, 宿泊を伴う集団生活を通して、望ましい人間関係をつくるとともに、集団生活における規律・責任・協調・友愛・奉仕の精神を養う。 3, 立志を迎えるにあたり、中学 2 年生としての自覚と将来への志を持つ。



IV、修学旅行の取り組み

1、事前学習から事後のまとめまでの活動日程

月	日	曜	活 動 内 容
2	6 13 18	木 木 火	学級での話し合い（ビデオや資料を使つての京都・奈良についての学習） 第1回実行委員会（組織編成・日程・活動計画についての話し合い） 事前学習（京都、奈良の地理・歴史）
3	6 13 20	木 木 木	第2回実行委員会（日程の確認・テーマについての話し合い） 事前学習（京都の観光地・奈良の観光地・アンケート） 学級での話し合い（☆京都方面クラス別活動・★奈良方面コース別活動・★夜の散策について）
4	9 16 23	水 水 水	第3回実行委員会（京都方面クラス別活動・奈良方面コース別活動について夜の散策について） 事前学習（★奈良・京都方面班別活動について） 学級での話し合い（☆旅館、ホテルの部屋割・新幹線、バス座席決定）
5	8 15 20 22 26 27 28 29 30	木 木 火 木 月 火 水 木 金	事前学習（★『お小遣い獲得大作戦』・きまり・★持ち物・★服装の検討） 第4回実行委員会（しおりのまとめ） 事前学習（きまり・持ち物・服装の確認） 第5回実行委員会（しおりのまとめ） しおりファイル読み合わせ 事前指導（学級・学年） 修 学 旅 行 事後指導（学年・学級）
6	9 12 24 30	月 木 火 月	まとめ（個人ファイルの整理・お小遣い決算報告） まとめ（ポスターセッション用ポスター作り） まとめ（ポスターセッション発表練習） 第6回実行委員会（保護者会発表について）
7	7 9	月 水	保護者会での発表リハーサル 保護者会での発表（アンケート実施）

★☆☆ 生徒の自己決定の場面を取り入れたところ

2、修学旅行の行程

第1日目 5月27日（火）

JR宇都宮駅集合（6：30）→ 宇都宮発（7：00）→ 京都着（10：53）
→ 【奈良方面コース別活動】→ 奈良・旅館着（18：00）

第2日目 5月28日（水）

奈良・旅館発（7：15）→ 【奈良・京都方面班別活動】→ 京都・ホテル着
（8：00）→ 【夜の散策（京都タワー・京都駅）】

第3日目 5月29日（木）

京都・ホテル発（8：00）→ 【京都方面クラス別活動】→ 京都発（12：27）
→ 宇都宮着（16：27）→ 解散（16：45）

3、テーマに基づく活動の内容

(1) 活動全般

修学旅行の行程における、生徒の活動を3日目から決定していった。3日目は、帰りの旅程を考え、クラスごとによる活動とし、各クラスごとの話し合いで、以下のような活動に決定した。

1 組	銀閣寺 → 金閣寺 → 京都駅
2 組	八つ橋庵（八つ橋作り）→ 金閣寺 京都駅
3 組	北野天満宮（合格祈願） → 金閣寺 → 京都駅
4 組	大徳寺大仙院（座禅・抹茶）→ 金閣寺 京都駅

次に、修学旅行第1日目の、京都駅から奈良の宿舎までの行程を決定することにした。事前学習で奈良方面の観光地を調べた後、生徒に、どこを訪れたいかのアンケートを取った。その結果をもとに、コースを作成し、この中から自分の行きたいところを選択させ、最終的には以下のようなコースで実施することになった。

A	バス	法隆寺 → 東大寺・奈良公園散策	39名
B	バス	平等院 → 法隆寺 → 東大寺	60名
C	近鉄	飛鳥方面レンタサイクル → 東大寺	14名
D	自由行動		12名

この後、クラス内で4人から6人の男女混合班を編成し、班ごとにクラス別活動とコース別活動の場所を考慮に入れて、2日目の日程を決定した。さらに、夜の散策として夜景を楽しむことを目的に宿舎から歩いていける京都駅と京都タワーの2カ所のうちのどちらかを選択した。

「学級」「班」さらには「学級の枠をはずしたコース別集団」という異なる場面において、生徒ひとりひとりが自分で考えて選択したり、決定する場面をより多く設けた。このことはその後のアンケートからもわかるように、活動全体に満足できる結果になったように思う。



(2) お小遣い・持ち物・服装

お小遣い、持ち物、服装に関しても、生徒が自分で決定する場面として事前学習に取り入れた。お小遣いは『お小遣い獲得大作戦』と名付けて、生徒ひとりひとりがそれぞれの活動全体を考えて、必要と思われる予算を「予算要望書」にして保護者に見せ、決裁をもらう方法で決定した。そして、修学旅行後は「決算報告書」を同じように作成した。

持ち物と服装についても、生徒それぞれが自分が必要だと思う物を考え、書き出し、準備までできるようにした。特に服装については5月下旬の奈良・京都方面の気候や気温、天気予報などを調べ、私服も含めて適切な服装を検討した。私服も良いということで生徒は最初喜んでいたが、最終的には、3日間ともに制服を着用した生徒は全体の7割、2割は2日目だけ私服や制服の上に私服の上着を着用した。そして3日間ともに私服を着用した生徒は1割だった。

V、まとめ

1、生徒のアンケートの結果から

(1) コース別活動について

- ・ほかのクラスの人と行動できてよかった。
- ・コースを選べてよかった。
- ・時間がもっと欲しかった。

(2) 班別活動について

- ・自分たちで力を合わせて協力できたのがよかった。
- ・団結できた。
- ・いつもと違う友人の面が見られた。
- ・普段あまりしゃべらない男子と話げできた。
- ・男女別班でもよかった。
- ・自分たちだけで回れて自身がついた。
- ・自分たちで決めることがよかった。
- ・男子のいい点がわかった。
- ・ハプニングもあったりしたが協力できた。
- ・計画したが行けないところがあり、もっとよく計画をたてればよかった。

(3) クラス別活動について

- ・クラスごとの活動も必要だ。
- ・貸し切りバスなのでよかった。
- ・クラスの良い思い出になった。
- ・クラスの仲が深まった。

(4) 奈良の宿舎（旅館）について

- ・風呂が広くていい。
- ・大人数の部屋で楽しかった。
- ・和室なのでゆっくり眠れた。
- ・大人数なのでうるさかった。
- ・一部屋の人数が多すぎる。

(5) 京都の宿舎（ホテル）について

- ・きれいで豪華だった。
- ・オートロックがめんどろだった。
- ・ベッドでよかった。
- ・リッチな感じがした。
- ・二人でゆっくり寝られたのでよかった。
- ・ユニットバスがよかった。
- ・ユニットバスにとまどった。



クラス別活動



コース別活動



奈良の旅館で



京都のホテルで

(6) 『お小遣い大作戦』について

- ・予算を立てたり、使った金額を覚えておくのがめんどうだった。
- ・自分で金額を決められてよかった。
- ・要望した金額より多くもらえた。
- ・いくら必要なのかよくわかった。
- ・親と話したので、あまりうるさく言われなかった。
- ・計画外の出費にどきどきした。

(6) 服装について

- ・選択できてよかった。
- ・全員制服のほうがよかった。
- ・制服か私服か統一して欲しかった。
- ・気温に調節できてよかった。
- ・私服はいけないと思う。



班別活動からホテルに到着

2、保護者のアンケートの結果から

(1) 活動について

- ・計画をきちんと立てて、活動できていたようだ。
- ・コース別、班別、学級別といろいろな活動があってよかった。
- ・ハプニングを乗り越える力がつき、自立の第一歩のようだ。
- ・自主性重視がよい。

(2) 発表について

- ・楽しそうで満足している様子がわかった。
- ・声が小さかった。
- ・写真がもっと見たかった。
- ・よくまとめられていた。
- ・全員が発表していてよかった。



夜景を楽しみに京都タワーへ

(3) 宿舎について

- ・大部屋が修学旅行らしくてよい。
- ・リッチな気分を味わえたようでうらやましい。
- ・二人部屋でよかった。

(4) 『お小遣い大作戦』について

- ・計画的に使えた。
- ・無駄遣いをしないで、大切に使った。
- ・上限を決めて欲しかった。
- ・家族で話し合い、何に使うのかよくわかった。
- ・残金を返金してくれた。
- ・残金を戻してくれない。



クラス別活動

(5) 服装について

- ・子供に決定をまかせても安心、ということがわかった。
- ・制服を選んでよかった。
- ・本人が考えるところがよい。
- ・制服がよい。 ・私服がよい。 ・統一してほしい。

3、成果と課題

「自己決定の場面を取り入れた修学旅行」というテーマから修学旅行をとらえてみると、すべての活動が、生徒にとっては大切な決定の場面であるように思えた。また、修学旅行での生徒の自己決定力は、それまでの学校生活における諸活動全体から培われたものと思われる。

生徒たちが1学年のときの冒険活動で、登山の難易度を自己決定した経験が2学年での自然体験学習でのクロスカントリーのコース選択にも生かされていたり、社会体験学習のポスターセッションでの反省が、修学旅行で生かされていたり、学校行事だけを考えても、生徒が自ら考え、判断し、行動できる能力や態度が養われていく様子を感じることができた。

アンケートからは、生徒たちは自分で考えて決定していくことの大変さを実感しながら、自分が決定したことに満足し、その結果として、責任ある行動や充実した活動につながった様子がうかがえた。例えば、奈良・京都の名所情報、交通情報をガイドブックや地図などから情報収集し、時には他のクラスや班との情報交換を行い、見学場所を吟味して選ぶことができた。また、服装を選択する際にはインターネットで修学旅行の期間の天気情報を調べ、その中から自分たちに必要な情報を選択し、自分たちで旅行を作る楽しさを味わうことができた。

保護者のアンケート内容からも、親子関係の再構成がうかがえた。保護者は子供が決定していく過程を見守りながら、修学旅行により一層関心をもつようになったようである。最初、子供たちが正しく判断できるのかどうか不安を感じていた保護者も、親子での話し合いを持ち、お互いの考えを伝え合う中で、子供が自ら判断したことに納得し、そこから子供の成長を感じたようである。

修学旅行の学習を進めるにあたって、生徒たちに十分考えさせ、その意見を学級から学年全体へとまとめ、さらに学校の取り組みとしていくこと、また学校と保護者とお互いの考えや意見を伝え合いながら、よりよい修学旅行を作っていくことの大切さを感じた。

今後の課題としては、修学旅行において可能な範囲で、生徒が自己決定できる場面をより多く取り入れ、さらにその過程を工夫していくことが挙げられる。そのためには教師側が生徒に与える情報の整備、そしてその情報の伝達の仕方等、ガイダンスの機能をより一層充実させることが必要である。

最後に、この修学旅行での学習から得た自己決定する力が生徒たちの今後の進路選択や、卒業後の生き方においても、大きな力となることを期待したい。

体験的な学習を通して見つめ直す自分とふるさと再発見の旅

栃木市立栃木西中学校

教諭（第3学年主任）

田中 弘子

教諭（第3学年副主任）

佐藤 宏行

I はじめに

II テーマ設定の理由

III 修学旅行までの（1，2年次）取り組み

- 1 第1学年 「総合的な学習に関わる校外学習」
- 2 第2学年 「社会体験活動（マイチャレンジ）」
「スキー宿泊学習」

IV 修学旅行の取り組み

- 1 修学旅行の日程
- 2 事前準備
 - （1）組織作り
 - （2）事前の活動日程
 - （3）事前活動の内容
 - ①実行委員会の活動について
 - ②クラス別行動と班別行動について
 - ③体験活動の計画について
 - ア コースや班が決まるまで
 - イ 実際に決まったコースと班の事前活動の内容
- 3 修学旅行の実際
 - （1）第1日目 クラス別・班別行動
 - （2）第2日目
 - ①午前：課題解決のための調査・体験活動
 - ②午後：班別自由行動
 - （3）第3日目 班別自由行動
- 4 事後指導

V 成果と今後の課題

I. はじめに

1 地域の特徴

本校は、栃木県南部の栃木市にある。創立は昭和22年であり、現在生徒数563名、学級数17、教職員数35名の中規模校である。本市への玄関口である栃木駅をかかえる本地域は、一部商業地区を含むものの、大部分は閑静な住宅街として発展している。半径3kmほどの本校学区には、4つの小学校の学区を含み、高校も5つの学校が集中している。また、県立公園の指定を受ける太平山や錦着山、清き流れの永野川や巴波川があり、自然に恵まれた環境にある。近くには病院や福祉施設、図書館や文化施設などの公共的な施設も多くあり、社会環境にも恵まれた地域である。

2 保護者や地域住民の特徴

本学区には自治会が19ある。子供たちと自治会との関係は、特に本校の町内別生徒会と通じて交流がある。数年前より、毎年夏休みを中心に自治会長と町内別生徒会が話し合いをし、ボランティア活動を実施するのが恒例になっている。始まった当初より年を追うごとに自治会の方々には子どもたちを生かして育てようとする意識が高まってきている。

また、保護者は全般的に教育への関心が高く、協力的である。PTA活動も活発で体育祭や西中祭（学校祭）はもちろんのこと、夏休みの奉仕作業などにも積極的に参加している。特に、2000年度には、本校独自の「西中親父の会」が発足し、学校の諸活動に父親が今までにも増して多数参加する姿が見られるようになってきた。授業にもゲストティーチャーとして参加していただいたり、環境整備面でも協力していただいている。

3 本校の特徴

本校では、教育目標に「進んで学ぶ生徒」「最後までがんばる生徒」「人のためにつくす生徒」を掲げ、「夢や希望を持ち、たくましく生きる生徒を育成する教育の創造」を目指して「地域に開かれ 地域に生きる学校づくり」を進める中でその推進に当たっているところである。

Ⅱ．テーマ設定の理由

1 目指す本校の教育から

本校においては、「夢や希望を持ち、たくましく生きる生徒を育成する教育の創造」を目指した教育を推進している。そのためには、「人間としての在り方・生き方の指導」を教育の中核に据え、地域とのかかわりを重視ながら「命の大切さを学ぶ講演会」（「命の講話集会」）、「夢を持つことの大切さ」を学ぶ講演会（「夢を語る講話集会」）や各種のボランティア活動を行い生徒一人一人が命の大切さに気付き、生きることを考える自分を見つめることをを通して「人間としての在り方・生き方の指導」につなげていきたいと考えている。

2 これまでの修学旅行との関わりから

これまで修学旅行においては、個人やグループごとに課題を設け、現地での体験を通じた活動を推進している。この課題については、京都や奈良の様々な特色とこれまでの総合学習との関わりから設定し、これまでの総合学習の発展や深化の機会としても位置づけている。

3 総合的な学習との関わりから

教育目標具現化のための学校経営方針として「地域に開かれ、地域に生きる西中」を掲げ、21世紀に生きる生徒を地域の人々とともに温かなまなざしの中で育てていくことを基本に据えている。

そのような意味から、本校の総合的な学習の時間においても地域を見つめ、地域の人々との触れ合いを通じた体験的な活動を推進している。現在の3年生においては1年次のテーマを「自分たちの地域を知る」とし、自分たちの住む町のことを調べる学習を通してふるさとを見つめさせた。2年次のテーマを「生き方づくり」として、地域の人々と協力を得ながら地域における職業体験を通して職業に対する見方・考え方を深めさせ、自分の生き方について考えさせ、自分を見つめさせた。3年次のテーマは「未来づくり」として、1，2年の学習を発展させながら自分の地域より視野をさらに広げ、多角的・多面的なものの見方をして自分の将来や地域の将来について建設的な意見を持つるように様々な活動を展開しているところである。

以上のようなことから、異郷の地において活動する修学旅行を通して、総合的な学習の時間に培った資質や能力を生かし「ふるさと」や「自分の生き方・在り方」を見つめ直す機会としてテーマを設定した。

その概念を図で表すと次のページのようになる。

本校の教育目標

目指す教育

夢や希望を持ち、たくましく生きる生徒を育成する教育の創造

地域に開かれ、地域に生きる学校づくり

人間としての在り方・生き方の指導

修学旅行のねらい

総合学習のねらい

異郷の地を通し
地域（ふるさと）や
自分の生き方・
在り方を
見つめ直す

「自分たちの地域を知る」
（1 学年）
「生き方づくり」
（2 学年）
「未来づくり」
（3 学年）

（発表テーマ）

体験的な学習を通して見つめ直す自分とふるさと再発見の旅

Ⅲ. 修学旅行までの（１，２年次）取り組み

1 第１学年

総合的な学習に関わる校外学習 「班別活動」

（１）ねらい

自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

テーマ 「地域を知る」

・身近な課題であり、体験や教材が豊富な地域を題材にすることは、生徒の主体的な問題解決学習につながると考えられる。また、生徒は自らの活動を通して今日的な課題の理解を深めるとともに地域との共生を大切にし、それらの問題に積極的に関わっていかこうとする態度を育成する。

（２）実施方法

学年全体を６つのコースに分け、生徒各自がそれぞれ好きなコースを選択して、各コースごとに数人ずつの班を作り課題解決学習に取り組んだ。

地域の調査においては、校外での調査活動に行く前に各コースごとに地域の方を招聘し、地域の様子や専門的な話を聞く機会を設けた。そのことにより、調査内容も深まり調査結果も充実したものとなった。

環境コース・自然分野・歴史コース・福祉コース・国際理解コース・商業・観光コース

（３）実施後の成果

生徒は、各コースごとに数人ずつの班を作り、課題を設定しそれを解決するための活動計画に沿って調査活動や体験活動を行った。その結果地域の方々と触れ合いながらの活動も含め、調査内容も深まり調査結果もより充実したものとなった。

１年次でのこうした体験活動は、次年度の「社会体験活動」（マイチャレンジ体験活動）へつなぐものとなったと確信している。



第２学年のスキー宿泊学習の様子

社会体験活動：マイチャレンジ 「14歳 自分への挑戦」

- ・実施期間 平成14年11月11日（月） ～ 11月15日（金）
- ・受入先数 89カ所

1年次からのつながりから2年次では、「地域の産業・職業」ということで、職業体験のみならず、あらゆる分野での体験活動を実施した。

（1）ねらい

地域の方々とのかかわりを主とした社会体験活動を通して、生徒とともに生きる心や感謝の心等を育み、主体的に自己の在り方や生き方を見つめさせる。また、3年間を見通した継続的なかかわりを通して、地域の人々と生徒の関係を深化させ、生徒を育む取り組みを地域に浸透させることにより、地域における教育力の掘り起こしを行い、「心の教育」の一助とする。

（2）推進の特色

- ①具体策のひとつである「生徒一人一人が、指導ボランティアの方など自分たちに関わってくれる地域の方々との交流を深めながら、同時に地域の産業や職業への理解を深め、最後まで一生懸命取り組むことの大切さを実感させる」（最後までがんばる生徒）に重点をおいた。
- ②受入先の開拓には、本校PTAの組織の一つである「親父の会」の方々にお骨折りをいただいた。
- ③教育課程への位置づけは、総合的な学習の時間で扱い、実施5日間は30時間のまとめ取りをした。

（3）実施後の成果

- ①地域の方々と共に汗して働くことで、地域の方々と交流が深められ、同時に親の苦勞を感じ尊敬の念が生まれた。
- ②親が子どもの社会体験に興味関心を持ち、家庭での親子の対話が促進される効果があった。
- ③職業観を見直し、自己の将来像を自分なりに描くよい機会となった。
- ④地域の人が中学生の実態を今まで以上に詳しく知るとともに、中学での教育活動に対して興味を持つようになった。

（4）今後の課題

- ①協力事業所で礼儀作法や人との接し方など教えられたことが多い。それらをさらに生かしていく方法を考えるとよい。
- ②学校と事業所との連携だけでなく、保護者との関わりをさらに深められるとよい。
- ③離れた事業所への交通手段の在り方も考慮した上で、事業所を選ぶことも必要かと考えられる。

スキー宿泊学習

- ・実施期日 平成15年1月30日（木）～2月1日（土）
- ・場所 福島県 「猪苗代スキー場」

（１）ねらい

- ①自分の言動に責任と自覚をもち、主体的に行動する意欲を高める。
- ②立志式を控え、将来の進路や目標達成のために何事も最後まで努力する態度を養う。
- ③雪国体験やスキー研修を通して、不自由さや寒さを乗り越えて最後までやり抜くことの大切さを身につけるとともに、生涯スポーツとしての知識や技術の向上を図る。
- ④集団生活を通して、規律・協力・友愛の精神を養う。

（２）実施にあたって配慮したこと

実施にあたっては次年度の修学旅行を意識し、生徒実行委員会を発足させる段階からできるだけ生徒の自主性を尊重すべく教師側は、あくまでも側面からの支援体制をとるよう心がけた。特にしおり作成においては、企画・内容の決定等、あくまでも生徒が主体となって各係ごとの打ち合わせを実行委員会のメンバーが中心となって入念な話し合いを行い、教師の指導助言のもとに行わせた。

（３）実施後の成果

宿泊学習直後に立志式を控えていたこともあり、その準備も大変忙しいスケジュールの中で進められた。とにかく「あくまでも生徒の主体性を尊重していく」という教師側の基本姿勢を貫きながら、宿舎内での過ごし方や持ち物等細かい決まりについても、十分検討した上で決定された。このことが次年度の修学旅行にもいかされるということも意識してか、生徒実行委員会も中学校における初めての宿泊学習に「ドキドキ・ワクワク」といった期待とも緊張ともとれるようなとてもよい雰囲気の中で実施された。各係の仕事内容を検討する場面でも実行委員がチーフとなり、教師の手をわずらわすことなく互いに意見を出し合いスムーズに決定した。

このようにして準備段階より生徒主体の実行委員会であったが、実際の場面でも実行委員を中心に、また、スキー実習においてもそれぞれの班長をリーダーとして生徒たちは、積極的に活動することができた。それに加えて、2月に実施された行事である「立志の決意発表会」も生徒の実行委員を中心に、映像をふんだんに使った宿泊学習の報告会を兼ねた実のある発表会となった。初めは、多少の心配があったが生徒を信じて行った結果が次年度につながるとてもよい方向づけとなったように思う。

スキー宿泊学習

- ・実施期日 平成15年1月30日（木）～2月1日（土）
- ・場 所 福島県 「猪苗代スキー場」

（１）ねらい

- ①自分の言動に責任と自覚をもち、主体的に行動する意欲を高める。
- ②立志式を控え、将来の進路や目標達成のために何事も最後まで努力する態度を養う。
- ③雪国体験やスキー研修を通して、不自由さや寒さを乗り越えて最後までやり抜くことの大切さを身につけるとともに、生涯スポーツとしての知識や技術の向上を図る。
- ④集団生活を通して、規律・協力・友愛の精神を養う。

（２）実施にあたって配慮したこと

実施にあたっては次年度の修学旅行を意識し、生徒実行委員会を発足させる段階からできるだけ生徒の自主性を尊重すべく教師側は、あくまでも側面からの支援体制をとるよう心がけた。特にしおり作成においては、企画・内容の決定等、あくまでも生徒が主体となって各係ごとの打ち合わせを実行委員会のメンバーが中心となって入念な話し合いを行い、教師の指導助言のもとに行わせた。

（３）実施後の成果

宿泊学習直後に立志式を控えていたこともあり、その準備も大変忙しいスケジュールの中で進められた。とにかく「あくまでも生徒の主体性を尊重していく」という教師側の基本姿勢を貫きながら、宿舎内での過ごし方や持ち物等細かい決まりについても、十分検討した上で決定された。このことが次年度の修学旅行にもいかされるということも意識してか、生徒実行委員会も中学校における初めての宿泊学習に「ドキドキ・ワクワク」といった期待とも緊張ともとれるようなとてもよい雰囲気の中で実施された。各係の仕事内容を検討する場面でも実行委員がチーフとなり、教師の手をわずらわすことなく互いに意見を出し合いスムーズに決定した。

このようにして準備段階より生徒主体の実行委員会であったが、実際の場面でも実行委員を中心に、また、スキー実習においてもそれぞれの班長をリーダーとして生徒たちは、積極的に活動することができた。それに加えて、2月に実施された行事である「立志の決意発表会」も生徒の実行委員を中心に、映像をふんだんに使った宿泊学習の報告会を兼ねた実のある発表会となった。初めは、多少の心配があったが生徒を信じて行った結果が次年度につながるとてもよい方向づけとなったように思う。

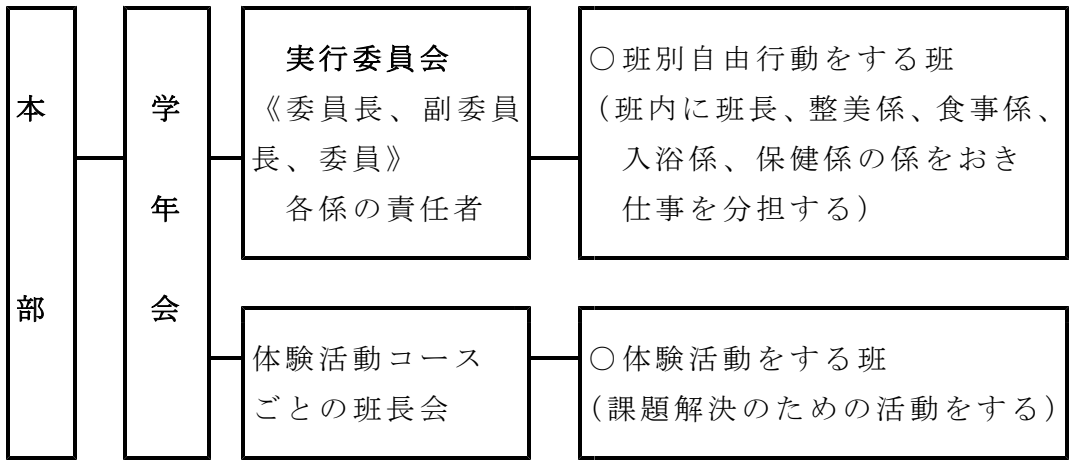
IV. 修学旅行の取り組み

1 修学旅行の日程

- 第1日目 JR 栃木駅集合（5：30）→小山駅→東京駅→京都駅（10：53）
→【奈良方面 クラス別・班別自由行動】→京都・宿舎着（18：30）
- 第2日目 宿舎発（7：45）→【体験活動】→宿舎着（12：30）
宿舎発 → 【班別自由行動】→宿舎着（18：00）
- 第3日目 宿舎発（7：45）→【班別自由行動】→東本願寺集合（11：30）
京都駅発（12：27）→東京駅→（バス）→栃木駅（18：00）

2 事前準備

（1）組織作り



（2）事前の活動日程

1	月 日	内 容
2	4月17日（木）	実行委員会（組織決定）、スローガン
3	4月18日（金）	個人ごとの課題設定
4	4月22日（火）	体験活動のコースごとに班分け
5	4月24日（木）	体験活動コースごとの事前調査、行動計画検討 実行委員会（各係ごとに仕事内容検討）
6	4月30日（水）	学年会議（各係からの原案検討）
7	5月 1日（木）	実行委員会（しおりの原案決定）
8	5月 2日（金）	体験活動コースごとの事前調査、行動計画決定 班別自由行動計画の検討
9	5月 6日（火）	班別自由行動計画の検討
10	5月 7日（水）	しおりの原稿締め切り
11	5月 9日（金）	班別自由行動計画案の決定
12	5月12日（月）	しおり印刷完了
13	5月13日（火）	しおり綴じ込み、係ごとに読み合わせ
14	5月20日（火）	しおりの説明（クラスごと）、質問

15	5月22日(木)	しおりの説明(学年全体)、質疑応答
16	5月27日(火)	コースごとの活動最終確認、事前指導
17	5月29～31日	修学旅行

(3) 事前活動の内容

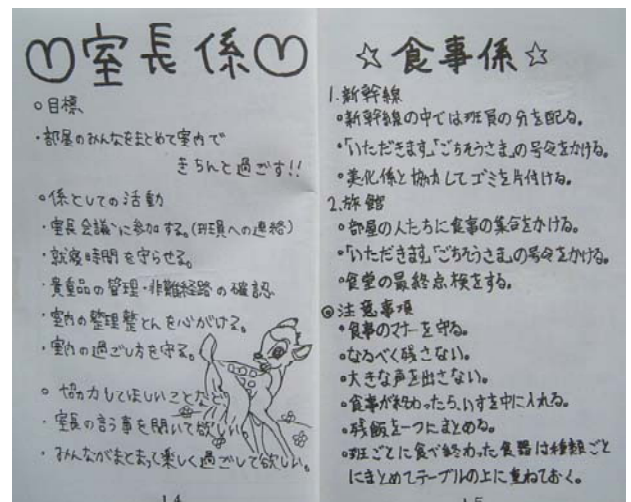
① 実行委員会の活動について

修学旅行実行委員は各クラスより男女2名ずつを選出し、学年で20名の組織にした。さらに、その中で委員長1名と副委員長2名を選出し、それぞれ各係の責任者となった。実行委員会では、スローガン・学年目標・生活面でのきまり・各係ごとの仕事内容などの検討を行った。実行委員が検討した内容はすべて学級会や係会議に下ろし意見や質問を受け、それを持ち寄って学年の先生の意見なども聞き、いろいろなきまりや細かい仕事内容や分担などを実行委員会で決定した。しおりの作成も実行委員会の係ごとの責任者が担当して行った。

◎ 修学旅行スローガン

行きは友達 帰りは親友 心に刻もう古都の思い出

◎ 生徒が作成したしおりの一部



② クラス別行動と班別行動計画について

1日目の午後は東大寺と奈良公園を全体で見学した後に、奈良市近辺のクラス別・班別行動を計画した。旅行業者より、行動プランの案を5つ提示してもらい学級ごとに相談して行動計画を決めた。

2日目の午後と3日目の午前中は京都市内でクラスの班別行動を計画した。行動する班は男女別に4～6名の班をクラス内で編成し、それぞれの班内で活動計画表を立てさせた。

③体験活動の計画について

ア コースや班が決まるまで

2日目の午前中に6つのコースごとに体験活動を計画した。これは総合的な学習の時間との関連があり、事前に学年集会を開いて修学旅行のねらい・総合的な学習の時間のねらいや修学旅行で体験学習をやる意義を話し、昨年までの実践から考えられる体験活動のコースの例を説明した。そのあと、個人ごとに課題を設定させ、同じような課題ごとにコースに別れ、その中で班を作った。この班は、クラスや性別に関係なく編成したが班を作らず個人で活動するところもあった。そして、班ごとに、具体的な活動場所や行動計画を考えさせ、事前の調べ学習も実施した。

◎修学旅行のねらい

- 1) 世界に誇る奈良と京都の長い歴史や文化・伝統に直接触れたりそこで生活する人々と交流することにより、日本の歴史や文化・伝統への深い理解と関心を高め、愛国心と日本人としての誇りをもたせる。【進んで学ぶ生徒】
- 2) 奈良・京都の地域を総合的な学習の観点から調査・体験活動を実施することにより、自らの生活や地域を見つめ直させる機会とする。【進んで学ぶ生徒】
- 3) 集団生活や体験活動を通して、自ら考え行動し、目標に向かって粘り強く最後までやりぬく態度を育てる。【最後まで頑張る生徒】
- 4) 小さな親切（ボランティア活動）の実践により、旅行地での人と人との触れあいにより、心に残る温かな修学旅行にする。【人のためにつくす生徒】

◎総合的な学習の時間のねらい

- 1) 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- 2) 見学や調査、実験・観察・話し合い活動などを通して、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育てる。
- 3) 地域の一員としての自覚や誇りを持ち、生活の主体者としての価値のある自己の生き方を考えることができるようにすること。

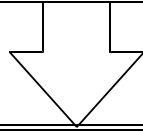
◎総合的な学習の時間と修学旅行との関連

1 年生：「自分たちの地域を知る」

歴史、観光、国際理解、福祉、産業、環境の 5 コースに別れ、自分が設定した課題に対して調査・体験活動をし、ふるさとを見つめる。

2 年生：「生き方づくり」

5 日間のマイチャレンジを中心に活動。それをもとに自分の生き方について考え、自分を見つめる。



3 年生：「未来づくり」

修学旅行での体験活動をもとに、自分やふるさとのあり方を考える。

修学旅行で体験活動をする意義

★いろいろな人との交流を通して、自分の価値観の変容やこれからの将来をどう生きていくか考える。

自分探し・生き方の変容

★京都と栃木市を比較することで、自分の住む地域が今後どうあるべきかを考える。（地域への提言）

産業、観光、福祉、国際理解、環境、平和、歴史など

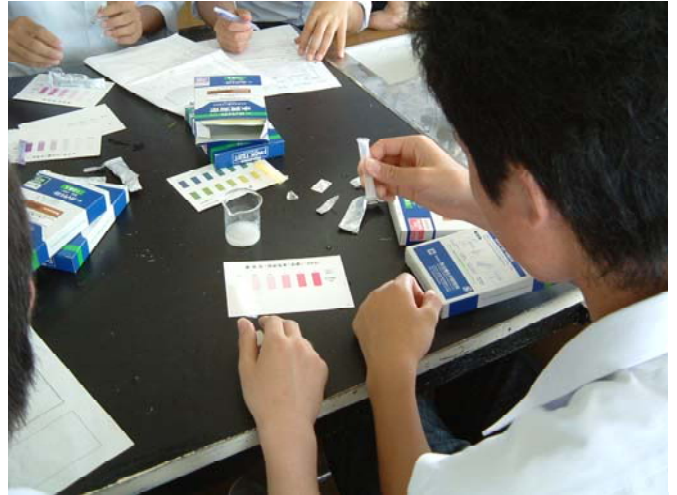
【体験活動をするコースの例】（昨年までの実践から考えられること）

- ・ 環境コース ： 京都のゴミ問題、地球温暖化防止京都会議の内容の調査
琵琶湖博物館にて調査、琵琶湖の水質調査
- ・ 商業コース ： 錦市場（最大 50 名）にて体験（アーケード街での職場体験）
- ・ 国際理解コース： 国際交流会館、ガイドさんと一緒に京都の町を回る
- ・ 平和コース ： 立命館大学国際平和ミュージアムにて調査
- ・ 歴史コース ： 京都市景観・まちづくりセンターにて調査・体験
- ・ 福祉コース ： 車いすの方と一緒に町を回る。
- ・ その他のコース： 各自が自分のやりたい課題を設定する

イ 実際に決まったコースと班の事前活動の内容

環境コース

環境コースでは、事前にパックテストを使い地域の水質調査やマツの葉を使った大気汚染の状況調べを実施した。また、実施したパックテスト（COD、pH、BCG、NO₂、NO₃、PO₄ など）の意味についてはインターネットや図書館の資料から調べた。さらに、琵琶湖博物館への行き方や博物館で聞きたい質問などを考えた。



（パックテストの様子）

商業コース

- ・体験活動計画書の作成

2年時の職場体験活動を振り返ったり、栃木市の商店街の様子などを話し合ったりしながら、栃木と京都の商店街の違いを発表し合い、計画書にまとめた。

- ・事前の調べ活動

計画書に従い、体験できる商店が決められた。商店街のホームページなどを閲覧して調べ学習を行った。

国際交流コース

国際理解コースでは、13人の生徒が3つの班に分かれ、国際理解について自分達の研究テーマを決定することから活動が始まった。1班のテーマは、京都が国際都市として多くの留学生を海外から受け入れていることを調査のきっかけとし、このことに関するデータの収集や留学生受入のためにどのような団体や活動があるのかを調査し、また、街頭でのインタビューに向けての質問（英語）の準備を進めた。

2・3班は、観光都市としての京都が、観光に訪れる海外の人々にどのようなサービスを提供しているかを現地調査を通して調べるため、名所旧跡を方面別に分担し効率よく訪問するための計画を立て、どのような資料を収集してくるかを考えた。

平和コース

平和コースでは事前活動を行う前に、調査活動の一連の流れを示した。調査活動の一連の流れは以下の通りである。

①戦争体験記を読み、戦争に関する予備知識を得る。（事前）②立命館大学国際平和ミュージアムにて調べ学習。（修学旅行中）③事前活動や国際平和ミュージアムで学んだことをまとめる。（事後）④栃木での戦争体験の話聞く。（事後）⑤一連の活動から、「21世紀を迎え自分たちが平和のためにできることは何か」、「自分たち

が栃木市へ向けた平和に関する提言」を導き出す。

平和コースの事前活動は、グループテーマ設定以前に「戦時体験を伝える」という体験記を読み、感想文を書くとともに戦争に関する予備知識を得た。そこから自分たちが何を調査したいのかというテーマ設定に結びつけた。そして、グループテーマ設定後に事前に何を調査しておくべきかを考え、それについての調査をした。また、国際平和ミュージアムへの行き方なども事前学習として行った。

歴史コース

それぞれのテーマをもとにグループ分けをし、そのグループごとに京都での調査活動内容を検討し、どこでどんな活動ができるか計画を立てた。幕末の日本というテーマの班は新撰組に関する場所はどこか、京都の文化をテーマにした班は京文化の中で実際に体験ができるものは何か、それはどこにあるかなど事前に調査し、目的地を決定した。

食文化コース

食文化のコースでの活動を希望した生徒が41名いた。テーマごとに8班を編成し、各班ごとに活動計画を進めた。各グループは「つけもの」「和菓子」「お茶」「おばんざい」の四つに分かれ、体験活動を中心とした内容を考えさせ、京都の人々との交流を図りながら学習活動ができるように工夫した。食文化という大きなテーマで栃木市と京都の比較をすることで、食文化が地域に果たす役割を見つめ、地域への提言としてまとめることを目指した。

・事前活動のまとめ

つけもの～京都の漬け物の種類などを調べ、歴史や製造方法については現地で調査をすることにした。京都での見学・調査場所を「土井しば漬け本舗」に決定し、活動計画を立てた。

和菓子～京都の和菓子作りを体験することを通して、食文化の伝統を考えていこうとした。体験を受け入れてくれる事業所や和菓子の資料館などを探し、活動計画を立てた。また、伝統的なお菓子に対する地元の人の意識を調査するアンケートを実施するため、その質問内容を考えた。

お茶～お茶の種類などを調べ、京都では茶道資料館での情報収集やいくつかのお店を調査対象とし、和菓子とお茶の関わりについての活動計画を立てた。

おばんざい～京都の郷土料理の歴史などのついて調べ、京都で実際に食品売り場などをどのように見て歩くか、その活動計画を考えた。

＜ 計 画 書 の 例 ＞

修学旅行 体験活動の計画書	
コース名	平和 コース 2 班
班 員 (4 名)	班 長 ー 班 員 ー
テーマ	例：『…の活動を通して、生き方の実容や栃木市への見聞を図る』 戦争の苦痛を知る活動を通じて、平和に関する栃木市 市民への見聞を図る
事前学習	『事前に調査、体験をしておくことは？』 栃木市において、… 京都の事前調査は… …と戦争に関する場所 …とあるかを調べる。 戦争は戦争と歴史、戦争での生活 …とあり、… …とあるか、戦争でどのような 被害を受けたのか、…と調 べる。
具体的な 活動内容 や 活動場所	『どこで、どんな活動をするか？』 生命館見学 国際平和ミュージアム 栃木資料 などから戦争中の生活について詳しく 調べる。

修学旅行 体験活動の計画書	
コース名	歴史 コース 1 班
班 員 (4 名)	班 長 ー 班 員 ー
テーマ	例：『…の活動を通して、生き方の実容や栃木市への見聞を図る』 …の文化を調査し、改めて栃木と …を知ろう！ …と…を…の文化を感じよう！
事前学習	『事前に調査、体験をしておくことは？』 栃木市において、… 京都の事前調査は… …と…の文化を調査し、改めて…と…を知ろう！ …と…の文化を感じよう！ …と…の文化を感じよう！ …と…の文化を感じよう！ …と…の文化を感じよう！
具体的な 活動内容 や 活動場所	『どこで、どんな活動をするか？』 …の文化を調査し、改めて…と…を知ろう！ …と…の文化を感じよう！ …と…の文化を感じよう！ …と…の文化を感じよう！ …と…の文化を感じよう！ …と…の文化を感じよう！

3 修学旅行の実際

(1) 第1日目：クラス別・班別行動

関修委のA日程で実施したので、栃木駅に5時30分に集合し、実行委員会による出発式を実施した後、JR両毛線で小山駅に行き、小山から新幹線「なすの234号〈自由席〉」に乗車し東京へ向かう。京都駅には10時53分に到着した。京都駅からクラス別に5台のバスに乗り、第一の見学地の東大寺へ向かう。ここで、クラスごとの集合写真を撮り、その後はクラス別・班別行動を実施した。事前にクラスごとに話し合った計画通りに、奈良公園を班ごとに散策するしたあとに法隆寺へ向かうクラスが4クラスと、興福寺を見学したあとあとに宇治平等院へ向かうクラスが1クラスあった。東大寺の大仏の大きさに驚く生徒や法隆寺のガイドさんの説明にうなづく生徒が数多く見られた。5クラスとも、ほぼ時間通りに行動することができ無事に宿舎に戻った。夜の室長・班長会議では2日目に実施する午前中の体験活動と午後の班別自由行動についての最終確認がなされた。



(2) 第2日目

①午前中：課題解決のための調査・体験活動

環境コース

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
宿 舎 発			琵琶湖博物館にて調査、体験 琵琶湖にて水の採取			
						宿 舎 着

宿舎を班ごとに8時に徒歩で出発し、近くの地下鉄（京都市役所前）に乗り山科駅に向かう。山科駅でJRに乗り換え草津駅で下車をし、そこから路線バスで琵琶湖博物館へ行った。琵琶湖博物館ではあらかじめ用意していた質問を学芸員の人にしたり、琵琶湖の水質や住んでいる生物などを展内にある展示物で調べた。また、近くの琵琶湖の畔でいろいろな場所の水を採取し、学校へ持ち帰った。



・生徒の感想

5月30日に行われた修学旅行に総合学習班別行動。私たち環境コースでは琵琶湖の水質調査に行きました。琵琶湖に着き、早速、パックテストに使う水を採取しました。その後、博物館に行って琵琶湖についていろいろなことを学ぶことができました。

短い時間での体験でしたが、琵琶湖やそこに生息する生物の生態について知ることができました。私はこの体験を通して、今後も栃木市の水質を調べこれからどういう風に環境に気を付けたらいいのか考えていきたいと思います。



店頭にて商品整理（米店）

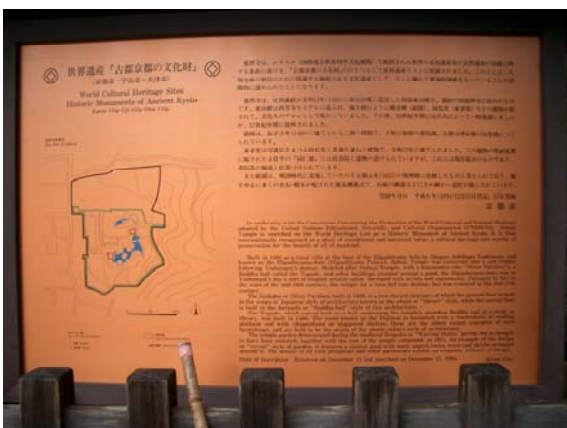


店員さんの指導を生かして（惣菜店）

国際交流コース

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
宿	1 班	京都市国際交流会館	→	街頭インタビュー（新京極）		
舎	2 班	京都駅 → 三十三間堂	→	東本願寺 → 西本願寺 → 東寺		
発	3 班	京都駅 → 八坂神社	→	泉通寺道	→	新京極

1 班の活動は、事前の調査において見つけた京都市国際交流会館の訪問である。この会館は京都市国際交流協会が留学生や在日外国人がより良い生活をし、また、日本人とこれらの外国人がお互いに理解し合うために交流する拠点として運営されているものである。訪問に際し職員の方へのインタビューの機会を得て、今日まで京都市が留学生を受け入れてきた経緯をいろいろな角度から質問し、交流の歴史や京都に住む留学生や外国人の数・出身地、提供するサービスの内容や課題など貴重な情報を得ることができた。もう一つの活動として、街頭で外国人へのインタビューを実践した。京都での生活について感じていることや期待すること、外国人としてどのように国際理解や交流に努めたいかを聞いてみた。時間の関係で多くの人にインタビューすることはできなかったが、調査活動の成果と共に、生徒自身の国際交流の体験として今後に生かされることを期待したい。2・3 班は名所旧跡を巡り、各観光地が海外からの人々にどのように開かれて



いるかを現地調査した。2 班は京都駅を出発の後、三十三間堂、東本願寺、西本願寺、東寺、また、3 班は京都駅から八坂神社、泉通寺道、新京極などを訪れ、観光客の人数やパンフレットや説明看板がどの程度外国語で書かれているかなどを調べ写真に収めた。途中、班員同士がはぐれ計画通り訪問できなかったり、写真撮影禁止の所があるなど多少のトラブルもあったが、3～4 時間の活動時間を生徒は有意義に過ごすことができた。

平和コース

8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
宿 舎 発		平和ミュージアムでの 調査、インタビュー			宿 舎 着

8時30分に宿舎を出発し、10時～12時まで立命館大学国際平和ミュージアム（以下、平和ミュージアム）にて、それぞれのグループテーマに沿って調査活動を行った。

平和ミュージアムに到着すると、ボランティアガイドの方が平和ミュージアムがつけられた理由や入口にある彫刻（わだつみの像…右写真参照）について説明してくださった。



続いて、地下1階の展示コーナーをすべて案内・説明してくださった。生徒たちは、生で聞くボランティアガイドの方の話に熱心に聞き入っていた。すべての説明終了後は、グループに分かれテーマに沿った調査活動を行った。そ



して、見学最後に展示コーナーにあるミニシアターで戦争に至るまでの経緯から今の平和を取り戻すまでの過程を説明した映画を鑑賞した。どのグループも思っていたよりテーマに関する調査を終了することができ、予定より早く宿舎に戻ることができた。宿舎へ戻るバスの中では、平和を実感する会話が聞かれた。

・生徒の感想

私たち、平和コースが行った、立命館大学国際平和ミュージアムには、戦争のことなどが詳しく展示されていて、初めて知った事がたくさんありました。戦場の兵隊たちだけでなく、みんな戦争のために、大きな被害を受けて、「二度とこ



んながあってはならない」と、思ったけれど、まだ戦争は、なくなっていないし、世界には、飢えや病気、貧しさや差別などで苦しんでいる人がたくさんいます。戦争がなくなったらみんなが暮らせる世界になってほしいです。

歴史コース

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
宿 舎 発		京都市歴史 資料館	まちづくり センターでの インタビュー	京町屋、京都 町並みの散策		宿 舎 着

それぞれのテーマをもとに資料館やまちづくりセンターを訪れ、インタビュー、体験活動等を行った。幕末の日本というテーマの班は壬生寺、霊山博物館等を訪れ、新撰組についての理解を深めた。また、京都の文化をテーマにした班は古代友禅苑、西陣織会館、京扇堂を訪れ、友禅染や京扇子づくりを体験したり、インタビュー等の調査活動を行った。さらに、上記の例のグループは京都まちづくりセンターを訪問し、京都の町屋とその町並みを残すためにどのような工夫がなされているか等のお話を伺い、自分達の住む蔵の町栃木市との比較を行った。

・生徒の感想

京都は厳しい規制をしることにより、美しい景観を保っていることがわかった。また、京都のまちづくり事業についても詳しく学ぶことができ、古都として栄える京都の秘訣がわかったような気がする。栃木には京都ほど厳しい規制はないが、様々なまちづくり事業が行われており、また古い歴史もある。蔵の街栃木の歴史とその町並みを残すためにも、栃木市にも景観を守る規制を増やしたり、さらに街作り事業を拡大する必要があると思う。そして私たち一人一人が住みよい町にするために行動をしていくことが大切だと感じた。



京都まちづくりセンターにて

食文化コース

		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
班	班 長		活 動	予 定			
1 漬 け 物 5 人	M・F		見 学 土井しば漬け本舗		調 査 新京極		
2 和 菓 子 5 人	Y・F		調 査 こなもんじゃ	見 学 ギルトハウス		調 査 おたべラウンジ	
3 漬 け 物 5 人	A・I		見 学 土井しば漬け本舗		調 査 新京極		
4 お 茶 5 人	M・S		見 学 茶道資料館	調 査 伊勢丹七條甘春堂本店		調 査	
5 和 菓 子 6 人	K・N		体 験 菓子総本店よし廣		調 査 おたべラウンジ		
6 和 菓 子 6 人	M・F		ア ン ケ ー ト	体 験 老松			
7 和 菓 子 4 人	M・M	調 査 新京極		見 学 博物館		調 査 寺町通り	
8 おばんざい 5 人	S・T	店 調 査 三ツ葉		ひいらぎ亭	高 島 屋		

見学体験活動場所

- ・ 土井志ば漬け本舗 0 7 5 - 7 4 4 - 2 3 1 1
- ・ 京菓子「老松」 0 7 5 - 4 6 3 - 3 0 5 0
- ・ 「よし廣」 0 7 5 - 8 1 1 - 5 5 5 4
- ・ 京菓子資料館 0 7 5 - 4 3 2 - 3 1 0 1

・ 活動の実態

つけもの～京都の「土井しば漬け本舗」の工場を見学させてもらい、漬け物の製造方法について、一連の流れを実際に見ることができた。担当者の方から説明していただき、生徒たちからの質問にも答えていただいた。

和菓子 ～ 和菓子作りにチャレンジする。生徒たちは、お店の担当者の方に教えていただきながら実際に和菓子を作ってみた。それぞれが好きなように形を考えて、思い思いのお菓子を作りを楽しみ、伝統的な和菓子の作り方などを学んだ。その他に8時30分頃から1時間程度、京都の街頭に立

ち、30人くらいの人にアンケートを実施した。時間帯が通勤時間に重なったことや、早い時間に行ったため予定した人数まではいかなかったが、地元の方と交流しながら活動し、アンケートに協力をいただいた。その他には「京菓子資料館」で京菓子の歴史や特徴についての説明を聞いたりした。

お茶 ～ 「茶道資料館」を訪問した。お茶について書かれた巻物や昔使われた急須などの展示品を見て、お茶の歴史について学んだ。また実際にお茶の飲み方や和菓子の食べ方を体験してきた。また、お茶（抹茶）を使った商品がどのくらいあるかを地元の手デパートで調査し、思っていた以上にたくさんの商品があることが分かった。

おばんざい～ 京都のデパート内にある「おばんざい」コーナーに行き、どんな種類があるか実際に調べた。販売員の方々に調理の方法や工夫点などを聞いたり、試食をしたりして調査した。はもを使った料理が京都の特徴であることがわかった。



和菓子作りの様子



「土井しば漬け本舗」の工場見学

・生徒の感想

「京菓子資料館」に行ったとき「桜の和菓子に名前を付けるとしたらどんな名前を付けますか。」と聞かれました。しかし、私たちはうまく答えることができませんでした。これから学習を進めていくうえで、「和菓子」の名前の由来を考えたり、そこにこめられている思いを考えたりしていきたいです。（女子）

漬け物の歴史や由来を調べたり、おいしい漬け物を食べたりすることができて良かったです。京都の「土井志ば漬け」本舗に行って、京漬け物は一千年前からずっと変わらず、人々に好まれているということがよく分かりました。それに、漬け物をつくるにはいろいろな人たちの努力も必要なんだと思いました。（女子）

京都のおばんざいはどれもおいしく、材料をうまく生かした調理方法がたくさんあることが分かりました。地元の方にとっても親切にさせていただいて、とてもうれしかったです。（女子）

②午後：班別自由行動

12:30	13:30	17:30
班の組み 替えの 待機時間	班別の自由行動	宿舎着 旅館にて 荷物整理など

12:30～13:30までの1時間は宿舎において、午前中に実施した体験活動ごとのグループから午後に実施するクラス中の班別自由行動のグループへの班の組み替えをする時間とした。午後の班は、各クラス男女別での8班の計40班になるが、全部の班が揃うまで待機するのではなく班ごとの人数が揃ったら、それぞれ京都の街中へ出発した。

京都を散策するコースは、4月から、班ごとに行ってみたい寺院や神社、博物館などを挙げてコースを組み立てた。いろいろなコースの多くは、金閣寺～北野天満宮～新京極という流れが見受けられた。また、行き先によってバスをたくさん利用する班は、各自、1日乗車券を購入した。限られた時間を有意義に使うために、場所や行き方（移動にかかる時間、料金）などを細かく調べておいたが、当日、立てたコースを回ってみると、「本能寺～平安神宮～青蓮院～八坂塔～二条城へ行く」などというように、たくさんの名所を回る班は、ゆっくり見学できずに駆け足で回ったのが現状だった。

京都での班別自由行動は、道に迷ったり、計画どおりに行かなかった班もあったが、遅くなりそうな班は教師とまめに連絡を取りあい、数班が若干集合時間に遅れたが、無事終わる事ができた。

平成15年度 修学旅行							7 班	
② 科目、③ 科目 別に行動の計画								
No.	1	2	3	4	5	6		
目的地	ホテル杉屋	京都岡崎	清水地蔵	三三平坂	ホテル杉屋			
拝観料・昼食代	X	1000 円	未定	おみやげ代	円	円		
見学所要時間	30 分	30 分	90 分	分	分	分		
見学開始時刻	13:00	14:08	15:09	16:39				
徒歩時間	5 分	2 分		15 分	分	分		
乗車費・停留所	河原町駅	清水駅前	清水通					
乗車時刻	13:13	14:14	17:06					
交通機関	阪神バス	250 市バス	徒歩	阪神バス				
所要時間	20 分	15 分	15 分	分	分	分		
乗車費・停留所								
下車時刻(乗車)								
乗車時刻(乗車)								
交通機関								
所要時間	分	分	分	分	分	分		
(乗車)・停留所	京都駅前	清水駅前	清水駅前					
下車時刻	13:33	14:29	17:27					
徒歩時間	5 分	10 分	10 分	分	分	分		
目的地到着時刻	13:38	14:39	17:37					

1	2	3	4
ホテル杉屋	金閣寺	小野川清宮	東本願寺
X	始発	未定	円
	20 分	30 分	分
8:00	9:05	9:56	
5 分	5 分	5 分	
河原町駅	金閣寺前	小野川清宮	
8:09	9:16	10:10	
阪神バス	250 市バス	阪神バス	
35 分	5 分	30 分	

生徒が作成した
2日目（午後）と
3日目の班の行動計画

(3) 第3日目：班別自由行動

3日目の午前中も2日目の午後と同様に班別自由行動を実施した。最終日にも自由行動を実施するのは本校としては初の試みであり、不測の事態には集合時刻に間に合わないのではと不安の意見もあったが、生徒の主体性と自律性を信頼し実践することを決めた。

実際に計画の段階から多くの課題が出た。2日目の午後には活動の時間が約5時間

あり、最後には宿舎（出発地）に戻るだけであるから計画も立てやすい。教師側も帰着時刻の遅れがあったとしても、指導して後に生かせばよいと覚悟することができた。しかし、3日目の活動時間は8時～11時のわずか3時間であるので、同じ半日という感覚で計画を立ててしまったせいか、やや無理のあるものが見られた。更に、最後の集合場所の東本願寺は、京都駅前とはいえ事前に場所を知らない生徒がほとんどである。これに不測の事態が重なり集合が遅れると帰途に大きな影響が出ることになる。よって、帰りの新幹線の時刻から逆算し、集合の時刻を早めに設定し、活動時間が短いことを周知させる指導を徹底した。

生徒たちは、早い時間から見学できる場所や比較的遠い所を計画の最初に位置づけたり、集合場所に順に戻る移動の計画を立てるなど工夫改善が見られた。訪問地も1～2カ所の班がほとんどであったが、生徒は京都で過ごせる最後の時間を活動的に過ごした。中には、東本願寺への到着が早すぎる慎重な班があったり、一方で、帰りの新幹線で食べる食料の調達に余念がない班など、それぞれの行動に生徒の性格が見事に反映されていた。結果として、集合に遅れた班は1つもなく、全学級が東本願寺の本堂をバックに集合写真を撮るだけのゆとりがあった。

帰路の列車やバスの中でも十分に楽しく盛り上がり、栃木駅に到着したときには多くの保護者に迎えられ、忘れられない思い出を胸に家路についた。



4 事後指導

（1）プリントによる反省としおりの巻末にある小さな親切の記録や感想の整理

修学旅行から戻ってきた後の学級指導において、2日目の午前の体験活動は充実したものになったか、2日目の午後と3日目の班別自由行動では予定通り進められたか。生活の決まりでよく守れた点や改善点、小さな親切の記録などを記録させた。その結果、2日目の午前中に行った体験活動はほとんどの生徒が、充実した活動だったと答えていた。また、小さな親切の記録では、バスの中でお年寄りに席を譲ることができたとか、班の人が調子悪いときにやさしく声をかけられたと記録されていた。本校では、ボランティア活動の日常化を図る意味でハートフルデーの活動などを行っているが修学旅行でも小さな実践ができた。

（2）調査・体験活動で学んだことを通して報告書の作成と地域のさらなる調査

2日目の午前中に行った調査・体験活動をまとめた後、事後の総合的な学習の時間において、6つのコースごとに地域の調査・体験活動を行った。そして、修学旅行で学んだことと自分の地域の実態を比較し、これからの自分の在り方や地域の未来への提言を含めた修学旅行の報告書を一人一人作成させた。作成したものを、西中祭（学校の文化祭）で展示した。

(3) それぞれのコースごとに行った地域の調査・体験活動

環境コース

- ・ 地域を流れる河川（永野川、うずま川）の水質調査と琵琶湖の水質の比較
- ・ 京都市内のマツの葉と地域のマツの葉の気孔の汚れの比較
- ・ 家庭からの排水（米のとぎ汁、風呂の残り水など）の水質検査

商業コース

- ・ 栃木市の商店街の調査や取材
- ・ 錦市場の体験活動との様子と2年次の職場体験との比較

国際交流コース

- ・ 栃木市国際交流会館での調査と市内の外国人受け入れの現状調査

平和コース

- ・ 錦着山にある戦争慰霊碑での調査
- ・ 戦争体験者（沖縄戦の「ひめゆり学徒隊」生存者）による講話集会

歴史コース

- ・ 蔵の町栃木市の町並みの様子の調査

食文化コース

- ・ 市内にある漬け物などの調査

◎生徒のまとめ（自分を見つめ直すことや地域への提言）より（抜粋）

京都は厳しい規制をしることにより、美しい景観を残していることがわかった。また、京都の町づくり事業についても学ぶことができた。栃木には京都ほど厳しい規制はないが、様々な町づくり事業が行われている。栃木にもよい歴史がある。これらの歴史をより長く残すためにも景観に関する制度を、もっと増やすべきだと思う。また、私たちの中でも、一人でも多くの人がこの栃木を好きになり、ほんの小さなことでもいいから行動していくべきではないだろうか。今回の学習では、京都の町づくりにふれ、古都として栄える京都の秘訣を知った。たくさんの京都の人とふれあうことができた。と同時に、この栃木について見つめ直すことができた。今回の学習を生かし、私たちがこの栃木をより住みやすい町にしていこうと思う。（歴史コース：女子）

職業体験を通して、あいさつの大切さを改めて痛感した。2年生の時も職場体験学習を通して、働くことの大変さや働く人たちの意気込みを感じたが、京都の錦市場での体験も時間は短かったが、交わすあいさつによって心が通じ合っているように感じた。私も、今まで以上にあいさつがしっかりできる人になっていこうと思った。

（商業コース：男生徒）

京都と栃木の店を比較したところ、京都は、店が明るく店員も面白いのがよかった。栃木も負けていなかった。短所は、京都は店がたくさん並んでいて見つけづらかった。栃木は、道路際にあって買いづらいところが感じられた。(商業コース：男生徒)

京都の店では、「阪神タイガースが勝った次の日は、うなぎが 200 円引きなどの工夫をしてお客をひきつけていました。また、新鮮な魚をその場でさばいてくれます。そんなところは栃木でもまねをしてもいいなと思いました。(商業コース：男生徒)

栃木の店の工夫として、若い人もお年寄りにも来てもらえるように品揃えを工夫しているのがよかった。また、栃木の多くの店で、観光客がたくさん来るようになればもっと商売は繁盛するだろうと言っていました。品評会で金賞を取ったお酒などがあるので、もっと宣伝するといいと思います。(商業コース：女生徒)

自分は今の時代に生まれていて、生きていてよかったなあとと思います。だから、世の中が戦争のない平和な暮らしになるといいと思います。(平和コース：男生徒)

私たちは今、平和な世の中で生きているけれど、その裏にはたくさんの尊い命が犠牲になった過去があったということを改めて実感しました。私たちも、与えられた尊い命を無駄にしないように、生きていきたいと思いました。(平和コース：女生徒)

戦争というものがどんなに怖いものか、また、どんなにつらいものか分かった。自分の大事なものがなくなってしまうととても悲しいと思う。それなのに与那覇先生はそんなことに負けないで生き続けているということがとてもすごいと思いました。命は本当に大切なことだと伝えてくれました。私たちもこれから、平和な社会を築いていこうと思います。(平和コース：女生徒)

栃木駅や市内を調べてみると、標示が日本語ばかりなので外国人にとって見るとよく分からないと思う。この点、京都はさすがに国際都市だけあって外国語の標示が多くあった。だから、栃木市も道路標識や観光スポットに外国語の標示を増やしたり、外国人の案内係をボランティアで募ったすると外国人に優しい町になると思う。また、市内に在住する外国人のために日常生活で利用する店などを載せた地図やパンフレットを外国語で発行するという工夫をするとういと思つた。(国際理解コース：男生徒)

修学旅行で京都に行ったとき、八つ橋という和菓子は誰もが知っています。栃木の和菓子にはこのように誰もが知っているものがあるか分かりません。私は、栃木のいちごやぶどうを使った和菓子で小さい子からお年寄りまで知られるような和菓子があればいいなと思います。栃木の名産品と何かをプラスすることによって栃木らしい味を出せるかもしれないからですこれから先、和菓子を残していくには昔からの伝統と現在の流行を調和させていってはどうかと思いました。(食文化コース：女生徒)

私たちは、栃木と京都の両方の漬け物を調べて、京都には夏・冬それぞれの漬け物があり、季節に深く関わるものがあることが分かりました。また、地元での野菜を生かして漬け物を作っていました。栃木県の特産物はたまり漬けです。そのたまり漬けや他の漬け物をもっと全国的に有名にし、京都のように観光客の方々にたくさん買ってもらって栃木市の活性化につながれば良いと思いました。(食文化コース：女生徒)

私たちは、京都と栃木を結ぶ創作菓子を作りました。それぞれの食文化にふれ互いの良さを見つけました。栃木には全国的に有名な名品は少ないけれど、栃木の特産品や風土を生かしてどんどん良さを知ってもらえるように町全体で町おこしが必要だと思いました。（食文化コース：女生徒）

市内の河川の水質を調べてみると琵琶湖の水質よりかなり汚い河川がある。昔、祖父の代の頃はその川で泳いだという話を聞いたことがあるが、今では信じられない話だ。これから私たちにできることは、川にゴミを投げたりしないことや家庭から出る排水のなかに米のとぎ汁があるが、今まで意識していなかったが河川をかなり汚す原因になっているので、直接流さず植木などに与えるようにして川を汚さない工夫をすることが大切だと思った。（環境コース：男生徒）

◎生徒のまとめた報告書



V. 成果と今後の課題

1 成果

- (1) 修学旅行を「教育目標」(進んで学ぶ生徒)、「本校の目指す教育」や1年次からの「総合的な学習の時間」との関連を図り系統性や発展性を考慮したことにより本校教育における修学旅行の位置づけや教育的意義が明確になった。

(2) 活動班を「個々の課題を解決するための班」と「自由行動をする班」の2種類を編成し、そのねらいを明確にしたことにより、班の活動の意義がよく理解され生徒が主体的に活動することができた。

(3) 事前の活動での課題意識を高め、事後の指導においてもテーマに即した調査・体験した内容を提言としてまとめるなどの意図的なまとめをしたことにより、「ふるさと」や「自分」を見つめ直すことにつながる成果が得られた。

○琵琶湖の環境調査をしたことで、改めてふるさとの環境問題の意識が高まり、栃木市の川にかなりの汚れがあることに気付き、家庭から出る米のとぎ汁などをむやみに流さないようにしたいと考えた生徒。

○商店街での職場体験を通して人と人との交流ではあいさつがいかに大切かを再認識して、これからあいさつがしっかりできる人になっていくという自分の生き方を見直した生徒。

○国際都市としての京都を実際に見たり外国人へのインタビューなどを通して自分の町が今後、国際化していくことの必要性を感じた生徒。

○国際平和ミュージアムで戦争の悲惨な現状を調査したり戦争体験者の話を聞くことを通して平和な社会の大切さを意識し、自分の在り方を見つめた生徒。

○古都・京都で歴史ある美しい町づくりがどのように行われてきたかを学んできて自分の地域にもよい歴史があることに気付き、栃木市について見直そうとした生徒。

○京都では伝統的な和菓子作りの技術が今でも伝承され、それをこれからも守ろうとする地域の人達の姿勢を学んできて、栃木においても地元の食材を生かした漬け物や和菓子作りの必要性を感じた生徒。

2 今後の課題

(1) 1年次からの総合的な学習の時間で取り組んできた内容を深化・発展させる場に修学旅行を位置づけたことにより、3年間を見通した活動をしていくことの必要性を感じた。今後、本校の教育全体の中での意義やその位置づけを明確化をしていくこと。

(2) 今回の修学旅行では、学級の枠を越えた「個々の課題を解決するための班」（「体験活動の班」）と学級を単位とした「自由行動をする班」の2種類を編成したが、それぞれの事前活動の時間と場が必要になった。そのため、事前活動の時間を生み出すのに苦労した。今後、事前活動の時間の有効的な取り方や活動のさせ方を工夫していくこと。

指導講評

栃木県教育委員会 指導主事 高岩利夫

[illegible]

関東地区公立中学校修学旅行委員会「研究発表会のあゆみ」

昭和41年以来、次の研究発表会を実施した。(敬称略)

回	年度	発表者 県・学校名 ◎講師	研究内容・講演内容
1	昭和41	増渕 増雄 栃木・泉が丘中 吉沢偏之助 千葉・柏中 関根武之進 埼玉・黒浜中	・修学旅行のカリキュラムについて ・修学旅行の安全対策 ・修学旅行の保健衛生について
2	42	高畠 栄治 茨城・赤塚中 根岸 幸治 群馬・昭和東中	・修学旅行における事故の発生と対策 ・中学生の関西修学旅行の実施について
3	43	◎宮本 常一 武蔵野美術大 荒幡 義輔 埼玉・本太中 ◎小沼 常治 東京桜町高校 君島 光夫 栃木・南犬飼中	講演「日本の宿の変遷と修学旅行」 ・修学旅行の問題点の教育的思考 講演「修学旅行における見学指導の在り方」 ・栃木県における修学旅行の実態
4	44	小泉 義 茨城・水戸五中 高田 福松 埼玉・幸手中 君島 光夫 栃木・南犬飼中 本間 康一 千葉・川間中	・安全実施のための運営と問題点 ・今後の修学旅行の在り方 ・生徒の手による修学旅行 ・特別活動としての学校管理上の問題点
5	45	現地研修会(京都)	
6	46	◎宮本 常一 武蔵野美術大 人見 芳正 栃木・箒根中 塩入安三郎 栃木・鹿沼西中 兵頭 ヤス 栃木・田沼東中	講演「修学旅行における望ましい観光の在り方」 ・小、中、高の関連の中で ・わかくさ号で行こうとしたのに ・新幹線を利用して
7	47	◎樋口 清之 国学院大 高橋 武司 千葉・柏中 高田 福松 埼玉・幸手中	講演「歴史の真実」 ・より効果的な修学旅行について ・修学旅行引率費負担の現状と公費負担
8	48	◎佐藤 政次 茨城土浦日大高 高田 福松 埼玉・幸手中	講演「歴史と暦」 ・修学旅行の意義と目的
9	49	◎樋口 清之 国学院大 菊地昌一郎 埼玉・加須北中	講演「旅と情報伝達ー忍者の正体」 ・オリエンテーリングを取り入れた修学旅行の実際
10	50	◎萩原 進 群馬郷土史家 谷 正久 群馬・古巻中	講演「群馬の風土と人」 ・群馬県の修学旅行の現状
11	51	神坂 重光 茨城・古河二中 条川 妙子 栃木・藤岡二中	・本校における修学旅行の企画運営 ・我が校の修学旅行の理論と実際 - 自主の気風を目指して -
12	52	坂田 次雄 千葉・松戸三中	・修学旅行における道德教育の実践
13	53	吉田 貫 茨城・水戸二中 潮池 ルミ 埼玉・蕨東中	・充実した修学旅行を目指して ・修学旅行における観察学習を効果的にするために - しおり作成と活用 -
14	54	生方実太郎 群馬・多那中 阿部 茂 群馬・新治中	・集合教育を取り入れた修学旅行 - 生徒の主體的な取り組み - ・有意義な修学旅行にするために - 新幹線における車窓教育 -
15	55	荻部 正夫 栃木・久下田中	・有意義な修学旅行にするために - 奈良公園におけるグループ別活動 -
16	56	天田 和之 埼玉・岡部中 平田 幸平 埼玉・日進中	・東北修学旅行を実施して ・総力を挙げての修学旅行の運営 - 大宮市立中学校長会 -
17	57	鈴木 勝 千葉・松戸四中 小川 辰雄 千葉・吾妻中	・東北へ修学旅行を実施して - 生徒のアンケートをもとに - ・生徒の自主プランによる修学旅行
18	58	岡野 久 茨城・永山中 青木 英 茨城・見川中	・連合による修学旅行の効果的なあり方を求めて ・生徒を生かし育てる修学旅行を目指して
19	59	◎高橋 哲夫 文部省教科調査官 福原 昭 群馬・中之条四中 福本長治平 群馬・富士見中	講演「修学旅行の今日的課題」 ・本郡修学旅行の現状と課題 ・よりよい修学旅行の在り方を求めて
20	60	◎高橋 哲夫 文部省教科調査官 ◎加藤 隆勝 筑波大学教授 滝田 潔 栃木・横川中	講演「自己教育力を育てる修学旅行」 講演「現代青少年の心理と集団活動」 ・修学旅行を通じての自己啓発
21	60	松本 三郎 栃木・壬生中 片山 悦男 栃木・宝木中	・本県修学旅行の現状と課題 ・よりよい修学旅行の在り方を求めて
22	61	西川裕二郎 千葉・南行徳中 村田小夜子 千葉・大洲中	・みちのくの修学旅行 ・修学旅行を省みて
23	62	小日向勝美 埼玉・朝霞四中 川上 次雄 埼玉・大宮第二東中	・洛中班自由行動による見学活動 ・自由性を生かした修学旅行

回	年度	発表者 県・学校名 ◎講師	研究内容・講演内容
24	63	◎高橋 哲夫 文部省教科調査官 宮本千代子 茨城・土浦第六中 川上 徹 茨城・日立豊浦中 須藤 和彦 茨城・下館中	講演「学習指導要領改訂の方向について」 ・生徒自身の生徒の手による修学旅行 ・お互いを高め合うグループ別見学学習 ・生徒と教師がともに作り、触れ、感じる修学旅行
25	平成 元	<会場 群馬県厚生年金会館> ◎高橋 哲夫 文部省教科調査官 後藤 秀夫 群馬・小野上中 真庭 幹郎 群馬・沼田西中	講演「新学習指導要領に於ける特別活動」 ・達成感の充実を目指した修学旅行 ・体験的な班別学習を取り入れた修学旅行
26	2	<会場 プラザインくろかみ> ◎渡辺 康隆 栃木県教委副主幹 松岡笑久子 栃木・小山美田中 大滝 伸一 栃木・宇都宮国本中	講演「研究成果の確認と今後の課題」 ・主体性を育てる班別行動 ・あたらしい修学旅行の在り方を考える
27	3	<会場 志津コミュニティセンター> ◎渡部 邦雄 文部省教科調査官 斎藤 正行 千葉・国分台西中 山田 守人 千葉・柏五中	主題「 集団の中で自己を生きし協力しあう修学旅行をもとめて 」 講演「集団の中に自己を生きす修学旅行」 ・リーダー養成を中心にすえた修学旅行 ・班別にテーマをもつ修学旅行をつくるには
28	4	<会場 埼玉会館> 井桁 孝 全修協修旅部長 大磯 宏 埼玉・所沢富岡中 藤川喜久男 埼玉・狭山中	主題「 教育性を高める修学旅行をめざして 」 提言「学校週五日制と修学旅行」 ・主体性を伸ばす班別行動 ・体験学習を通して生き方を学ぶ東北修学旅行
29	5	<会場 茨城県立青少年会館> 井桁 孝 全修協修旅部長 秋田 昌彦 茨城・五所ヶ丘中 安島 一之 茨城・赤塚中	主題「 自主的に活動し、自ら学ぶ修学旅行 」 提言「新学力を培う修学旅行」 ・生き方、在り方を学ぶ体験学習への援助指導の試み ・体験を通して自らの生き方を考える修学旅行への取り組み
30	6	<会場 プラザインくろかみ> ◎大槻 達也 文部省環境教育専門官 田上 富男 栃木・市貝中 古田 真隆 栃木・豊郷中	主題「 主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行 」 講演「修学旅行における生徒の自主性」 ・三年間を見通し自ら学びとる力の育成を目指す修学旅行 ・研究テーマの設定を中心に生徒自らが計画した修学旅行の実践
31	7	<会場 群馬県生涯学習センター> ◎高橋 哲夫 文教大学教授 今成 保治 群馬・渋川北中 田村 正紀 群馬・池田中	主題「 主体性を育てる修学旅行 」 講演「これからの学校教育と修学旅行」 ・集団の行動力を高める修学旅行 ・主体性を育てる修学旅行の実践
32	8	<会場 市原市勤労会館> 鈴木 俊幸 千葉・土中 眞野 義幸 千葉・木刈中	主題「 主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行 」 ・自主性を育む修学旅行の取り組み ・生徒の自主性を高める修学旅行のあり方
33	9	<会場 浦和市民会館> ◎森嶋 昭伸 文部省初中局教科調査官 田村 俊明 埼玉・鷺宮中 金子 桂一 埼玉・鴻巣西中	主題「 主体性を伸ばし、行動力を高める修学旅行 」 講演「学校教育の転換と修学旅行への期待」 ・生徒の知恵と発想を大事にし、主体的に生きる力を育む修学旅行 ・自主的活動をめざした修学旅行
34	10	<会場 水戸市民会館> 岩原美智枝 茨城・日立坂本中 坂入 秀範 茨城・下館北中	主題「 主体的に活動し自ら学ぶ修学旅行 」 ・自ら学ぶ態度を育てる修学旅行をめざして ・主体的に活動し、実践力のある生徒を育てる修学旅行
35	11	<会場 プラザインくろかみ> 高塩 博美 栃木・宮の原中 片川 慶子 栃木・毛野中 三芝 直美 //	主題「 生きる力 」をそだてる修学旅行 ・体験学習を取り入れた修学旅行 ・自らの生き方を求める体験学習としての修学旅行
36	12	<会場 群馬県生涯学習センター> ◎森嶋 昭伸 文部省初中局教科調査官 高橋 隆雄 群馬・新治中 埴田 栄一 群馬・長野原西中 田中 充弘 //	主題「 生きる力 」を育てる修学旅行 講演「これからの学校教育と修学旅行」 ・自主的に取り組む班別行動をめざした修学旅行 ・自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する修学旅行 - 総合的な学習の時間を活用して -
37	13	<会場 アミューズ柏> 田淵 実 千葉・西志津中学校 佐藤 卓 // 池田 保 千葉・湖北台中学校 瀧谷 善武 // 水戸 勝英 //	主題「 生きる力 を育てる修学旅行」 ・体験学習を取り入れた班別自主学習 ・自ら課題を発見し、自ら計画し、自ら検証する修学旅行を目指して - 修学旅行を総合的な学習と位置づけての実践 -
38	14	<会場 さいたま市民会館おおみや> 渡辺 勝徳 埼玉・神泉中学校 関口 陽子 // 梅津 稔 埼玉・南高麗中学校	主題「 みんなで創ろう21世紀の修学旅行 」 ・自ら学び自ら考える力の育成を目指す修学旅行 ・総合的な学習の時間の視点から見た修学旅行

第39回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会紀要

平成15年11月14日

発行 関東地区公立中学校修学旅行委員会

財団法人 全国修学旅行研究協会

[事務局] 〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-6-8

TEL 03-5275-6653 FAX 03-5275-6653

E-mail shuryo@h2.dion.ne.jp